



# 2019 男女世界選手権映像資料解説



(公財) 日本ハンドボール協会

競技・審判本部

2019年11月



2019 男子世界選手権総括 資料解説目次 (P 1)



2019 女子世界選手権 事前資料解説目次 (P 2)

# 2019 男子世界選手権総括 資料解説

## 目次

|  |    |
|--|----|
| Topic 1 : 第 8 条 罰則の判定基準.....             | 4  |
| Topic 2 : レッドカード および ブルーカード.....         | 6  |
| Topic 3 : ピボットゾーン .....                  | 8  |
| Topic 4 : シミュレーション行為 と オーバーリアクション行為..... | 10 |
| Topic 5 : オフエンシブファール .....               | 12 |
| Topic 6 : 7mスロー .....                    | 14 |
| Topic 7 : パッシブプレー .....                  | 15 |
| Topic 8 : その他.....                       | 22 |

# 2019 女子世界選手権 事前資料解説

## 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| Topic 1 : 第 8 条 段階的な罰則 ..... | 26 |
| Topic 2 : オフェンシブファール .....   | 31 |
| Topic 3 : パッシブプレー .....      | 34 |
| Topic 4 : 7mスロー .....        | 39 |
| Topic 5 : 全般的なもの .....       | 42 |

# 2019 男子世界選手権

## 総括資料解説



**GERDEN**  
**HANDBALL'19**  
26th IHF MEN'S WORLD CHAMPIONSHIP



## Topic 1 : 第 8 条 罰則の判定基準

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 1 | 映像 1 :<br>BRN - ESP | この状況では、DFは接触地点に遅れて、更に足を広げて入ってきて、OFの足に接触している。<br>これは、少なくとも即座に2分間の退場と7mスローを判定すべき危険な行為である。               |
| 2 | 映像 2 :<br>ESP - JPN | この状況でDFは背中を向けているが、危険な方法で足を使用している。<br>2分間退場を判定しなければならない。   |
| 3 | 映像 3 :<br>SRB - RUS | DFは、ジャンプするOFの腰あたりを押している。<br>大きな影響はないが、イエローカードと7mスローの判定は正しい。   |
| 4 | 映像 4 :<br>MKD - BRN | この状況では、DFは一步を大きく用いて、危険な方法でOFの足に自分の足を乗せた。<br>即座に2分間退場と7mスローを判定しなければならない。                               |
| 5 | 映像 5 :<br>CHI - KSA | DFはパスを出したOFを、ボールを受け取りジャンプした別のOFに押し当てている。<br>これは危険な行為であり、即座に2分間退場と7mスローを判定しなければならない。                   |
| 6 | 映像 6 :<br>FRA - ESP | DFは最初に正しく位置を取っている。ウィングプレーヤーは、動いていないDFに向かってジャンプしている。<br>この状況では、7mスローになることない。レフェリーのゴールキーパーズスローの判定は、正しい。 |

|    | 映像タイトル               | コメント   |
|----|----------------------|--|
| 7  | 映像 7 :<br>DEN - SWE  | DFは、前腕でOFの首を叩いた。<br>試合開始直後であっても、即座の2分間退場は正しい判定である。                                   |
| 8  | 映像 8 :<br>CRO - SWE  | 2回の連続したOFの頭部への違反に対して、即座の2分間退場（同一の基準とバランスのとれた適切な判定）を与えている。                            |
| 9  | 映像 9 :<br>FRA - ESP  | シュートを打とうとしているプレイヤーのスローイングアームに対する違反は、少なくとも即座の2分間退場を判定しなければならない。この場合、7mスローも判定する。       |
| 10 | 映像 10 :<br>GER - RUS | 開いた足でOFのフェイントを止めることはサッカーのアクションであり、即座の2分間退場を判定しなければならない。                              |
| 11 | 映像 11 :<br>NOR - HUN | これら3つの場面は、競技規則第8条により即座に2分間退場を判定すべき良い例です（引き倒す、後ろから押す）。ただし最後の場面で、レフェリーは誤ったプレイヤーを罰している。 |

## Topic 2 : レッドカード および ブルーカード

### レッドカード

|   | 映像タイトル                  | コメント   |
|---|-------------------------|--|
| 1 | 映像 1 :<br>K S A - A U T | D F はボールの位置とは全く関係ない、O F の頭部を攻撃している。<br>レフェリーは、レッドカードを判定しなくてはならない (レフェリーは、ブルーカードを判定すべきかどうかを判断するために、ビデオ判定を使用することができる)。 |
| 2 | 映像 2 :<br>F R A - S R B | D F はボールの位置とは全く関係のない、O F の頭部を攻撃している。<br>レフェリーは、レッドカードを判定しなくてはならない。   |
| 3 | 映像 3 :<br>G E R - N O R | 速攻時に後ろから衝突するというこのような危険な行為は、レッドカードに値する行為である。  |
| 4 | 映像 4 :<br>I S L - B R N | D F は、腕を使って空中にいる O F の頭部を攻撃している。<br>レフェリーによるレッドカードの判定は、正しい。  |
| 5 | 映像 5 :<br>A R G - A N G | D F がジャンプし、O F の腹部に足をぶつける行為は、レッドカードを判定すべきである (この場合、ビデオ判定を使用して、報告書を伴う失格とすべきかどうかを決定できる)。                               |

## ブルーカード

2019年の世界選手権では、報告書を伴う失格の判定は1つだけだった。当該の状況を分析した結果、IHF-PRCは、レッドカードで十分であるという見解を示した(映像1を参照)。

ただし、2人のプレーヤーが互いに向かい合い、一方のプレーヤーが他方のプレーヤーに頭突きをする行為(映像2を参照)には、報告書を伴う失格が判定されるべきであった。IHFは、このような状況には厳しい罰則を与える。なぜならこの行為は、私たちの魅力的なスポーツであるハンドボールに悪影響を及ぼすからである。幸いなことに、合計96試合の中でこの1件のみであったことで、全体的にこの大会は、ハンドボールにとってポジティブなイメージを与えてくれたと言える。

|   | 映像タイトル             | コメント  |
|---|--------------------|---|
| 1 | 映像1 :<br>ARG - EGY | 空中にいるプレーヤーが正面から押され危険な状態で倒れた場合、レッドカードは正しい判定である。ただしこの行為は、特に危険な行為ではないため、ブルーカードを適用するには十分ではない。レフェリーは、どのような場合に報告書を伴う失格を判定すべきかを確認しておく必要がある。    |
| 2 | 映像2 :<br>KSA - AUT | DFが速攻の際、背後からOFに危害を及ぼす行為をした場合、レッドカードを判定しなければならない。その後、相手に頭突きをしており、この行為に対しては、報告書を伴う失格としなければならない。この振る舞いは、ハンドボールを含む全てのスポーツの本質とはかけ離れている行為である。 |



### Topic 3 : ピボットゾーン

|   | 映像タイトル              | コメント   |
|---|---------------------|--|
| 1 | 映像 1 :<br>RUS - GER | プレーヤーを後方から引き倒す行為は、ボールがどこにあるとか、試合のどの場面で起きたかにかかわらず、常に 2 分間退場で罰せられなければならない。   |
| 2 | 映像 2 :<br>NOR - DEN | ピボットゾーンにおける 2 つの事象。<br>1 つ目は、長時間捕まえ続けたことによる直接の 2 分間退場の判定。<br>2 つ目は、長時間捕まえ続けたことに加え、さらに別の DF が OF の顔を手で叩いてしまった。これも直接の 2 分間退場により罰せられなければならない。 |
| 3 | 映像 3 :<br>CRO - GER | プレーヤーを後ろから長時間捕まえ続けることは、ボールや試合のどの場面かにかかわらず、即座に 2 分間退場を判定しなければならない。  |
| 4 | 映像 4 :<br>CRO - SWE | 2 つの映像はゴールエリア付近での類似した違反行為（ピボットプレーヤーに対し長時間捕まえ続け、引き倒す行為）である。<br>どちらも、即座に 2 分間退場を判定する。  |

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 5 | 映像 5 :<br>NOR - DEN | ボールを手に入れる可能性のないDFが、ピボットプレーヤーのシャツを長時間掴んでいる。<br>この行為は、直接の 2 分間退場に値する。<br>レフェリーは、もしこの違反がなければピボットプレーヤーがボールを保持できると確信した場合、7mスローを判定することができる。 |
| 6 | 映像 6 :<br>GER - ISL | この種のシャツを強く、そして長時間にわたり掴み続ける行為は、試合のどの場面かにかかわらず、即座に 2 分間の退場で罰せられなければならない。  |
| 7 | 映像 7 :<br>GER - NOR | ピボットプレーヤーを後方から押したり、引き倒したりする行為は、即座に 2 分間退場と 7mスローを判定しなければならない。   |
| 8 | 映像 8 :<br>ISL - CRO | ピボットプレーヤーがゴールを決めたとしても、DFが明らかにシャツを長時間掴み続けていた場合、即座に 2 分間退場の判定をすべきである。   |
| 9 | 映像 9 :<br>JPN - MKD | この 2 つの似たような行為（ピボットプレーヤーに対して長時間捕まえ続け、引き倒す行為）は、どちらも体格差や体重差に関係なく、直接の 2 分間退場に値する行為である。   |

#### Topic 4 : シミュレーション行為 と オーバーリアクション行為

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 1 | 映像 1 :<br>FRA - GER | レフェリーとTDは、これらの状況（2つの場面でOFが倒されている）に注意を払い、必要に応じて罰則を与える必要がある。この場合、DFは衝突を回避すべきである。  |
| 2 | 映像 2 :<br>FRA - ESP | OFによるオーバーリアクションは、レフェリーの誤った判定を引き起こした。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは、強い姿勢で罰則を適用しなければならない。  |
| 3 | 映像 3 :<br>CRO - GER | DFによるオーバーリアクションは、試合を決める時間帯にレフェリーに誤った判定を引き起こさせた。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは強い姿勢で罰則を適用しなければならない。<br><br>※ レフェリーは試合終了間際には 120%以上の集中力を持って、判定に責任を持たなければならない。 |
| 4 | 映像 4 :<br>GER - NOR | OFによるオーバーリアクションは、レフェリーに誤った判定（2分間退場）を引き起こさせた。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは強い姿勢で罰則を適用しなければならない。   |
| 5 | 映像 5 :<br>NOR - DEN | OFが過剰に反応し、罰則を誘発させようとする行為が 3 つあります。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは強い姿勢で罰則を適用しなければなりません。  |

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 6 | 映像 6 :<br>BRA - SRB | OFのオーバーリアクションは、レフェリーの誤った判定（2分間の退場）を引き起こした。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは強い姿勢で罰則を適用しなければなりません。                        |
| 7 | 映像 7 :<br>DEN - SWE | OFはオーバーリアクションにより、DFに対する罰則の適用を誘発している。この場面で、レフェリーは適切に対応しているが、OFに対し直接の2分間退場を判定することもできた。                              |
| 8 | 攻撃 8 :<br>ESP - ISL | ピボットプレイヤーはDFのシャツを片手で持ち、もう片方の手でボールをコントロールし、7mスローと罰則を誘発している。このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは試合開始直後から強い姿勢で罰則を適用しなければならない。 |
| 9 | 攻撃 9 :<br>NOR - HUN | OFはオーバーリアクションにより、DFの違反を誘発させているが、レフェリーは適切に対応している。いずれにせよ、このスポーツマンシップに反する行為に対し、レフェリーは試合開始直後から強い姿勢で罰則を適用しなければならない。    |

## Topic 5 : オフェンシブファール

2017年フランス大会と比較し、IHFは、レフェリーが的確にOFの違反を判定するようになってきたと捉えている。ただし、依然として重要な課題であり、IHF-PRCはIHF-CCM(指導技術委員会)の助けを借りながらレフェリーと引き続き協力し、レフェリーの判定がよりの確になるよう努めていく。

### OFの違反と7mスロー

プレーヤーはしばしばエリア際で互いに衝突する。これらの状況では、まずDFがゴールエリアの中を移動してきたのかどうか（あるいはエリアの中にいたかどうか）を的確に判断する必要がある。この一連の流れは、ゴールレフェリーが観察しなければならない。DFがゴールエリアの中を移動した（あるいはエリアの中にいた）場合、7mスローの判定が必須となる。DFが有利でない場合は、一般的な判断基準を適用する。

### OFの違反 - 一般的な判断基準

すべてのレフェリーが理解し、的確に運用しなければならない判断基準

- ・ レフェリーは、最初に位置を取ったのが、DFであるかOFであるかを判断する必要がある。通常、後から位置を取ったプレーヤーが、違反したこととなる。
- ・ DFがOFに対し前方に移動した場合、オフェンシブファールの判定はしない（OFがDFに対して脚または腕を広げたりしない限り）。
- ・ DFが曲げた腕を使って、OFを保護しながら接触している場合は、DFの違反にはならない。
- ・ 通常、DFが腕を伸ばしてOFを押したり掴んだりする場合、違反とみなされる。
- ・ ごくわずかなケースであるが、違反とみなされない行為であれば、プレーヤー同士が接触をすることは可能である。
- ・ レフェリーは、試合開始直後から欺く行為に毅然と対応すべきである（必要ならば、「これ以上やるな！」というメッセージを込めて、強く罰則を適用する）。
- ・ レフェリーの位置取りは、様々な状況を的確に観察し、適切に対応するために重要となる。

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 1 | 映像 1 :<br>ESP - CRO | ボールを持ったOFが、ジャンプの際に動いていないDFにぶつかっており、オフエンシブファールの判定は正しい。                 |
| 2 | 映像 2 :<br>RUS - COR | 最初に接触をしているDFが後ろから押しているため、オフエンシブファールを判定してはならない。<br>正しい判定は、直接の2分間退場である。 |
| 3 | 映像 3 :<br>GER - FRA | ゴールエリア付近で、10秒以内に起きた2つの同様の行為：<br>バランスの取れた、正しい判定（オフエンシブファール）。           |
| 4 | 映像 4 :<br>JPN - MKD | ゴールエリア付近で、2つの同様の行為：<br>バランスの取れた、正しい判定（オフエンシブファール）。                    |
| 5 | 映像 5 :<br>GER - CRO | レフェリーが判定している1つめの接触は、OFの違反ではない。<br>DFのオーバーリアクションである。                   |

## Topic 6 : 7mスロー

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 1 | 映像 1 :<br>JPN - MKD | アドバンテージを認めた後、OFは十分なボディーコントロールによりシュートを打っており、7mスローの判定はあり得ない。直後、白のプレイヤーは、コート中央付近でオフエンシブファールを誘発させようとしている。                   |
| 2 | 映像 2 :<br>ARG - EGY | 1つめの接触で、DFの腕がOFの顔に当たっている。レフェリーはアドバンテージを適用しているが、継続後のプレーで、DFが明らかにゴールエリアの中にいるの見逃してしまった。<br>正しい判定は2分間退場。さらに、7mスローを判定すべきである。 |
| 3 | 映像 3 :<br>DEN - FRA | 2つの映像とも同じ状況であり、どちらもDFはゴールエリアの外で最初に位置を取り、またOFに向かって（前方に）動いていない。<br>どちらの状況も、オフエンシブファールの判定が正しい。                             |
| 4 | 映像 4 :<br>NOR - DEN | DFが最初に正しく位置を取り、OFがDFの肩口へぶつかっている。<br>レフェリーは7mスローを判定しているが、正しい判定はオフエンシブファールである。  |
| 5 | 映像 5 :<br>DEN - SWE | 些細なファウルの後、ピボットプレイヤーは完全にボディーバランスを保ち、シュートを打っている。<br>レフェリーは7mスローの判定をせず、「そのまま競技を続行させる」必要がある。                                |

## Topic 7 : パッシブプレー (IHF-PRC と IHF-CCM)

2016 年リオオリンピックで導入された新しいルールを、継続し適用している。2019 年の世界選手権を前に、CCM (指導技術委員会) は、現行の競技規則解釈 4「パッシブプレー」に関し、詳細なガイドラインを提示することによって、レフェリーに明確な概念を示した。パッシブプレーの予告合図は、プレーヤーからの抗議を防ぐ客観的な基準を示すこととなる。今大会を通じて、抗議やミスを見ることはなかった。

しかしながら、いくつかの問題が確認されたことから、IHF-PRC と IHF-CCM は基準の修正を図り、レフェリーが以下に示す攻撃時の様々な戦術の可能性を理解できるよう努める。

- ・ 組み立て局面
  - ・ ゴールに平行 (横方向) なプレーなのか、あるいはゴールに向かったプレーなのか
  - ・ オープンスペース
  - ・ トランジション (ポストへのきり)
  - ・ 攻撃意図
  - ・ 防御側チームの防御行為
  - ・ チームは劣勢なのか、それとも優位に立っているのか
  - ・ ゆっくりとした選手交代
  - ・ 試合終了間際
- 等

### 適切なタイミングでパッシブプレーの予告合図を示すためのガイドライン

パッシブプレーに関する新しい競技規則 (つまり攻撃側チームは、パッシブプレーの予告合図が示された後、最大 6 回のパスができる) の導入により、レフェリーのパッシブプレーの評価は、更に重要なものになった。レフェリーによるパッシブプレーの判定は、特に試合の終盤といった重要な状況において、勝敗に大きな影響を与える可能性がある。



パッシブプレーの兆候は、コートプレーヤーがゴールキーパーと交代しプレーをする際にも確認できる。

<7対6での攻撃、チームに2分間退場中のプレーヤーがいる場合の6対6での攻撃などの状況で>

- ・大きなリスクを背負わず、安全に試合を進める
- ・得点を取ることができる明確な状況ができるまで、時間をかけてプレーする
- ・時間を稼ぐため、攻撃の組み立て局面をゆっくりと行う

IHFでは、レフェリーと共に次のようにガイドラインを作成した。

## **IHF ガイドライン**

- ◆ 狙いを定めた攻撃活動に移行するまでに、極端に時間をかけない

### **【 判断基準 】**

- ・攻撃側チームが、相手コートにゆっくりと移動している
- ・立ち止まったまま、パスを繰り返す
- ・意図のないクロスやきり

- ◆ 攻撃側チームのプレーヤーの人数が（ゴールキーパー不在の状況などで）相手チームよりも多い場合、時間をかけてプレーしない

**【 判断基準 】**

- ・ ゆっくりとした組み立て局面
- ・ シュートを狙えるような状況に結びつかない戦術
- ・ 攻撃隊形を、時間をかけて再度、整える

- ◆ レフェリーは積極的な防御活動を評価しなければならない

**【 判断基準 】**

- ・ 違反のない方法で、防御を試みている
- ・ 防御側チームが、パスのコースや攻撃側プレーヤーの進路を封じている
- ・ 違反のない方法で、攻撃側プレーヤーのスピードやタイミングを遅らせている
- ・ 攻撃側チームが、立ち止まっている、あるいは自陣の方へと押し戻されている
- ・ 攻撃のペースが上がらない

## **結 論**

2019年男子世界選手権（ドイツ・デンマーク大会）では、レフェリーは全般的にガイドラインに沿ってパッシブプレーの予告合図を示してくれた。

今大会は過去の大会と比較し、明確な進歩が見られた。将来的には、レフェリーが状況を見極めることも重要であり、その中で、パッシブプレーの予告合図を出さずにパッシブプレーを判定することもあるだろう。ただしこれには、レフェリーが戦術を十分に理解している必要がある。

|   | 映像タイトル              | コメント   |
|---|---------------------|--|
| 1 | 映像 1 :<br>QAT - ANG | DFのチームは、ファールを犯すことなく積極的な防御活動により、OFチームにプレッシャーをかけていた。シュートを狙うことができずピボットプレイヤーがボールをバウンドさせたその瞬間、レフェリーは、パッシブプレーの予告合図を示す。   |
| 2 | 映像 2 :<br>GER - FRA | 積極的な防御は、攻撃のリズムを崩す要因となる。<br>DFプレイヤーは、バックコートプレイヤーのパスコースを封じており、センターバックのプレイヤーは、一度DFプレイヤーから離れ、更に無意味なリターンパスをしなければならなかった。<br>レフェリーは、パッシブプレーの予告合図を良いタイミングで示している。                                   |
| 3 | 映像 3 :<br>GER - FRA | ゴールキーパー不在の状況において、しばしば組み立て局面に長い時間をかけることがある。<br>OFチームは相手コートにボールを運び、ポジション攻撃を行っている。ピボットプレイヤーへのパスを、DFチームはフリースローで中断した。フリースローの後、狙いを定めた攻撃活動に移行せず、組み立て局面にさらに長い時間を要している。<br>レフェリーのパッシブプレーの予告合図は、正しい。 |

|   | 映像タイトル             | コメント  |
|---|--------------------|---|
| 4 | 映像4 :<br>GER - FRA | 映像3と同じ試合、かつ同様にゴールキーパー不在の状況。<br>OFチームは、組み立て局面で多くのパスを繰り返すことで、長い時間をかけている。1対1の後、DFプレイヤーはフリースローで攻撃を中断した。更に長い組み立て局面を経て、再び攻撃は中断された。<br>ここでレフェリーは、パッシブプレーの予告合図を出すこともできたはずである。ただし、OFチームに対してわずかな組み立て局面の機会を与えるべきであり、フリースローからの1回目のパスで、予告合図を出すことは避けなければならない。 |
| 5 | 映像5 :<br>CRO - MKD | 両チームに2分間退場のプレイヤーがそれぞれいる中で、OFチームは、ゴールキーパー不在(6対5のアウトナンバー)の状況で攻撃をしている。<br>長い組み立て局面の後、ポジション移動をしながら攻撃活動を行っているが、狙いを定めた攻撃活動ではなかった。<br>レフェリーは、正しくパッシブプレーの予告合図を出しているが、もう少し早く示すべきである(ただし、左バックのプレイヤーが前へと移動している時ではない)。                                      |
| 6 | 映像6 :<br>CRO - ESP | 試合終了まで残り9分、OFチームが4点リードしている場面。OFチームはパスやポジション移動など組み立て局面を長く使い、狙いを定めた攻撃活動へと移行していなかった。右バックプレイヤーはピボットプレイヤーと合わせることができるともかかわらず、センターバックにパスを出した。<br>レフェリーは、適切なタイミングでパッシブプレーの予告合図を出している。   |

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 7 | 映像 7 :<br>CRO - ESP | 長い組み立て局面の後、右バックプレイヤーはDFからファールを受け、プレーが中断した。ピボットプレイヤーのスローにより競技が再開されると、DFは積極的な防御活動を行い、パスコースを防いだ。<br>レフェリーは、適切なタイミングでパッシブプレーの予告合図を出している。  |
| 8 | 映像 8 :<br>CRO - ESP | 後半 24 分、OF側チームは3点を追って攻めている。少しでも点差を縮めるため、7人攻撃を行っている。しかし攻撃はとても消極的で、特にピボットプレイヤーへのパスフェイクは、何のプレッシャーも攻撃のペースを上げることもなく行われている。<br>OFがシュートを狙う様子もなく、レフェリーは、パッシブプレーの予告合図を適切に出している。  |
| 9 | 映像 9 :<br>長い組み立て局面  | 試合終盤の重要な時間帯で、以下の観察基準を基に、レフェリーは良いタイミングで予告合図を出している。<br><br>< 観察基準 ><br><ul style="list-style-type: none"> <li>○ OFは<b>歩いて</b>相手コートに移動している</li> <li>○ 立ったままパスをしている</li> <li>○ 戦術的な意図もなく、ウィングプレイヤーとクロスしている</li> </ul> <p><b>IHFの指針</b> : 最初のセットオフenseでの組み立て局面において、極端な遅延は許されない！</p> <p>例 ) 相手コートへ歩いていく<br/>         立った状態でのパスが多すぎる<br/>         戦術的な意図もないのにクロスする</p> |

|    | 映像タイトル                               | コメント   |
|----|--------------------------------------|--|
| 10 | 映像10：<br>予告合図なしに、パッシブプレーを判定することもできる！ | 試合終了まで残り14秒の場面、1点リードしているチームがボールを所持している（スローオフは終了している）。<br>ボールを受け取った15番は、明らかにシュートを打てる位置にいるにもかかわらず、このチャンスを使わなかった。<br>レフェリーは、即座にパッシブプレーを判定しなければならない！<br><br><b>IHFの指針</b> ： 予告合図なしに、直接、パッシブプレーを判定することもできる！ |

## Topic 8 : その他

ここでは様々なトピックから映像を選択しており、ハンドボールの更なる発展を目的としている。

|   | 映像タイトル              | コメント  |
|---|---------------------|---|
| 1 | 映像 1 :<br>AUT - ARG | DFプレイヤーはレフェリーの笛の後、素早いフリースローの開始を妨害するため、ボールを遠くに押し出した。この行為は8の10cに明記されており、レフェリーはレッドカードと7mスローを判定しなければならない。   |
| 2 | 映像 2 :<br>GER - BRA | DFプレイヤーは、ゴールエリアの外からジャンプをし、右手でボールに触れた。その後、ボールはDFプレイヤーの足に当たった。これは、明らかな得点チャンスを妨害したのではないことを意味する。<br>(DFプレイヤーがゴールエリアを利用したわけでも、足を用いてシュートを妨害したわけでもない)<br>正しい判定は、フリースローである。 |
| 3 | 映像 3 :<br>BRA - ESP | OFプレイヤーが、センターライン付近でゴールキーパー不在のゴールにシュートを打とうとした際に、DFプレイヤーがその手を叩き、背後から押した。<br>正しい判定は、7mスローと直接の2分間退場である。   |
| 4 | 映像 4 :<br>ESP - CRO | DFプレイヤーは、明らかな得点チャンスを妨害しており、7mスローを判定しなければならない。しかし、このようなスポーツマンシップに反する振る舞いは、レフェリーおよびTDによって、強く罰せられなければならない。   |

|   | 映像タイトル                                     | コメント   |
|---|--|--|
| 5 | 映像 5 :<br>クイックスローオフは、モダンハンドボールの醍醐味！        | 得点后、退場相当ではなく軽微な違反に対するイエローカードを判定するために、スローオフを遅らせてはならない。ゲームの流れに乗り、人間性を発揮してプレーヤーへ口頭やボディランゲージを用いて基準を伝えること。レフェリーは試合の流れを止めないよう努めなければならない。また、必ずしも 6 枚のイエローカードを試合中に判定する必要は無い。 |
| 6 | 映像 6 :<br>後半のイエローカードは不要                    | 単に注意のためのイエローカードであるならば、例えば、抗議や足を使つての妨害といった例外を除いて、後半にイエローカードを判定してはならない。  |
| 7 | 映像 7 :<br>機械的な判定                           | 一回の攻撃で、3 枚のイエローカードを適用することはあり得ない。<br>これでは試合をコントロールできず、ここで適用された 3 枚のイエローカードは機械的であり、レフェリーは「ロボット」化している。<br>レフェリーは、ボディランゲージや人間性、罰則をうまく組み合わせて試合を運営しなければならない。               |
| 8 | 映像 8 :<br>ゲームの流れを重視し、人間性を発揮している理想的なレフェリーの姿 | <b>【モダンハンドボール】</b><br>レフェリーが試合を止めたのは、得点后、直接の 2 分間退場を判定した時のみである。<br>レフェリーは試合の流れを重視しており、展開の速い試合を促し、チーム役員とも良いコンタクトを取っている。   |



|    | 映像タイトル                         | コメント  |
|----|--------------------------------|---|
| 9  | 映像9：<br>明確で分かりやすい<br>ボディールンゲージ | ゴールレフェリーの判定に対するはっきりと分かりやすいボディールンゲージは、競技場にいる誰にでも伝わる良いインフォメーションである。   |
| 10 | 映像10：<br>位置取りの工夫               | レフェリーは常に良い位置を取らなければならない。<br>この場面でレフェリーは、アウターゴールラインの延長線上にいないと、レフェリーのミスが試合の最終結果に影響を与えることもある。位置取りが悪いことで、誤った判定をしてはならない。 |



# 2019 女子世界選手権

## 事前資料解説



## Topic 1 : 第 8 条 段階的な罰則

|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 1 | 映像 1 : POL vs HUN<br>試合開始直後であったとしても、首を叩く行為には即座に 2 分間退場を適用すべきである。                                       | レフェリーは試合開始直後から基準を示さなければならない。もし相手の頭部を叩いたならば、例えボールに対するプレーであろうとなかろうと、判定は即座に 2 分間退場としなければならない。   |
| 2 | 映像 2 : ESP vs CRO/FRA vs RUS<br>(すべてのレフェリーは、同じ判定基準を用いること)<br>空中にいるプレーヤーを押し行為には、即座に 2 分間退場を判定しなければならない。 | 空中にいるプレーヤーを押し行為は、ボールに対するプレーであろうとなかろうと、判定は即座に 2 分間退場でなければならない (IHF-PRC の判断基準)。<br>2 つの映像の状況においては、7m スローも判定すべきである。                       |
| 3 | 映像 3 : ROS vs GYO<br>顔を叩く行為は、 <b>どんな場合であっても</b> 即座に 2 分間退場を判定すべきである。                                   | 相手の頭部を叩く行為は、ボールに対してのプレーであろうとなかろうと、その罰則は少なくとも、即座に 2 分間退場でなければならない。<br>レフェリーは決してイエローカードで収めてしまうことがあってはならない。<br>この状況では、レッドカードの判定が必要な場合もある。 |
| 4 | 映像 4 : ROS vs FTC<br>(IHF-PRC の判断基準では) 即座に 2 分間退場を判定すべきである。  | 試合の序盤であっても、即座に 2 分間退場が必要な場面で、イエローカードの適用は決してあってはならない。<br>明らかに捕まえ続ける行為や相手を引き倒す行為は、ボールに対するプレーであろうとなかろうと、競技規則 8 の 4 が適用されなければならない。         |

|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 5 | 映像 5 : FRA vs RUS<br>空中にいるプレーヤーを押し続ける行為は即座に 2 分間退場であり、さらに 7m スローを判定する可能性もある。                         | レフェリーは試合のどの時間帯であっても、IHF-PRC の判断基準を示さなければならない。もし、空中でシュート体勢にあるプレーヤーが後方から押されたり、引き倒された場合、ボールに対するプレーであろうとなかろうと、即座に 2 分間退場と 7m スローを判定すべきである。 |
| 6 | 映像 6 : HUN vs SWE<br>ユニフォームを引っ張る行為には、即座に 2 分間退場を判定しなければならない。   | ユニフォームを引っ張り続けるような行為に対して、即座に 2 分間退場を判定しなければならない。  |
| 7 | 映像 7 : DEN vs MNE<br>2 分間退場では不十分であり、少なくとも失格を判定すべきである。  | 競技規則 8 の 5 に、相手に対して危害を及ぼす行為は、失格となることが明確に示されている。<br>映像のような相手の頭部に対する攻撃的な違反行為に対して、レフェリーは失格を判定しなければならない。                                   |
| 8 | 映像 8 : THC vs VKR<br>速攻の場面で後方からつまずかせる行為は、少なくとも 2 分間退場とすべき。<br>レフェリーはボディランゲージ（とても強い表現）で明確に状況を示すべきである。 | 走っているプレーヤーを後方からつまずかせる行為は、大変危険である。<br>映像では、レフェリーは明確なボディランゲージを使って、2 分間の退場を判定している。判定は正しい。<br>しかし、違反の影響がより深刻であれば、失格を判定しなければならない。           |

|    | 映像タイトル  | 解説  |
|----|---|---|
| 9  | 映像 9 : NED vs CZE <b>※新傾向</b><br><ピボットの新しい傾向><br>誤った判定を誘発させるために、防御側プレイヤーのユニフォームを明かに掴む行為①  | ピボットゾーンにおける新しい傾向である。<br>ピボットプレイヤーが一方の手でボールをキャッチしているが、もう一方の手は防御側プレイヤーのユニフォームを長く掴み続けており、7m スローと 2 分間退場を誘発させている。<br>正しい判定は攻撃側の違反であり、またピボットプレイヤーに対し即座に 2 分間退場とすべきである。 |
| 10 | 映像 10 : VKR vs GYO <b>※新傾向</b><br><ピボットの新しい傾向><br>誤った判定を誘発させるために、防御側プレイヤーのユニフォームを明かに掴む行為② | ピボットゾーンにおける新しい傾向である。<br>ピボットプレイヤーが一方の手でボールをキャッチしているが、もう一方の手は防御側プレイヤーのユニフォームを長く掴み続けており、7m スローの判定を誘発させている。<br>正しい判定は攻撃側の違反であり、またピボットプレイヤーに対し段階的に罰則を適用すべきである。        |
| 11 | 映像 11 : NED vs FRA<br>ピボットプレイヤーは、ボールをキャッチする前に引き倒されている。<br><br>(※ 映像では、違反後のプレーが先に出来ます)     | レフェリーは、ピボットゾーンにおいて、新しい傾向として、ピボットプレイヤーがボールをキャッチする直前に、防御側プレイヤーが引き倒していることに気付かなければならない。<br>この場面では、2 分間退場の判定は正しい。<br>このような状況を正しく判定するために、両レフェリーがうまく領域分担をしなければならない。      |

|    | 映像タイトル   | 解説  |
|----|--|---|
| 12 | 映像 1 2 : ARG vs CUB<br>防御側プレイヤーの出した足を、ウィングプレイヤーが踏んでいる。非常に危険な行為！                            | ウィングポジションにおける新しい傾向である。<br>防御側プレイヤーが大きく足を踏み出して、ウィングプレイヤーの踏み切る足の下に入り込んだり、上から踏みつけたりする行為は、非常に危険である。<br>このような行為を厳しく罰することを IHF-PRC は推奨しており、この場面において、失格は正しい判定である。                          |
| 13 | 映像 1 3 : BRA vs CMR<br>ウィングプレイヤーが飛び込む前に防御側プレイヤーが大きく足を踏み出す行為は、即座に 2 分間退場にすべきである。            | 防御側プレイヤーが脚を大きく踏み出し、攻撃側プレイヤーの足にぶつける行為は、即座に 2 分間退場の判定と、レフェリーによる強いボディランゲージが必要である。  |
| 14 | 映像 1 4 : NOR vs HUN<br>防御側プレイヤーが大きく足を踏み出すことで、ウィングプレイヤーがその足を踏んでしまう状況では、即座に 2 分間退場を判定すべきである。 | ウィングポジションにおける 2 つのよく似ていた状況（攻撃側プレイヤーの足の下もしくは上に、防御側プレイヤーが大きく足を踏み出している）において、どちらの状況も即座に 2 分間退場を判定すべきである。<br>2 つ目の状況においては、7m スローも判定すべきである。もし違反行為の影響が大きければ（重大な負傷につながった場合）、失格を判定しなければならない。 |

|    | 映像タイトル   | 解説  |
|----|--|---|
| 15 | 映像15 : ROU vs CZE / GER vs CZE<br>防御側プレイヤーが先に位置を取っている場合、衝突の責任は攻撃側プレイヤーにある。 | 防御側プレイヤーは先に正しく位置を取っており、また動いてもいない。<br>接触の責任はウィングプレイヤーにあり、7m スローでも2分間退場でもない。<br>どちらのケースも、判定はゴールキーパースローである。      |
| 16 | 映像16 : BUD vs BBR / TUN vs CHN<br><ウィングポジションにおける最近の傾向><br>防御側プレイヤーは動いていない。 | 2つのウィングポジションにおける類似した状況である。<br>先に位置を取り、かつ動いてもいない防御側プレイヤーの上に、ウィングプレイヤーが乗りかかっている。<br>どちらのケースも、攻撃側の違反を判定すべきである。   |
| 17 | 映像17 : PAR vs ESP / ARG vs POL / HUN vs FRA<br>防御側プレイヤーの接触による違反行為。         | 3つのウィングポジションにおける類似した状況である。<br>防御側プレイヤーは、空中にいるウィングプレイヤーの方へ、接触をしようと動いている。<br>判定は7m スローとし、加えて即座に2分間退場としなければならない。 |

## Topic 2 : オフェンシブファール

|   | 映像タイトル  | 解説  |
|---|---|---|
| 1 | 映像 1 : GYO vs BUC<br>決して 7m スローを判定してはいけない。                      | <p>防御側プレーヤーは、ゴールエリアラインに沿って平行に移動し、最初に位置を取っている。</p> <p>攻撃側の違反を判定すべきである。</p> <p>正当な防御をしようとしている選手に対して、7m スローを判定するのは厳しい。</p> |
| 2 | 映像 2 : CZE vs HUN<br>腕を用いた明らかな攻撃側の違反。                           | <p>攻撃側プレーヤーは、有利な空間を作るために伸ばした腕で防御側プレーヤーを押し倒している。</p> <p>攻撃側の違反を判定したレフェリーの判断は、正しい。</p>                                    |
| 3 | 映像 3 : ESP vs CRO<br>攻撃側の違反の判定以上に必要なものはない。                      | <p>攻撃側プレーヤーが腕を使ってフェイントをした際、前へと動いていない防御側プレーヤーの顔や体にぶつかっている。</p> <p>このような場合、攻撃側の違反を判定しなければならない。</p>                        |
| 4 | 映像 4 : MET vs ROS<br>前へと動いている防御側プレーヤーに対する、試合終了直前でのレフェリーの致命的なミス。 | <p>2 人の防御側プレーヤーが攻撃側プレーヤーの方向に向かって動いている場合、攻撃側の違反を判定してはならない。映像での場面では、得点とすべきである。</p>  |
| 5 | 映像 5 : SLO vs ANG<br>空中で相手に膝を向ける行為。                             | <p>防御側プレーヤーの方に膝を向けてジャンプする行為は、攻撃側の違反であり、プレーヤーの技術不足であったとしても段階的罰則を適用すべきである。</p> <p>防御側プレーヤーにとってみれば、痛々しい限りである。</p>          |



|   | 映像タイトル   | 解説  |
|---|--|---|
| 6 | 映像6：SWE vs FRA<br>攻撃側プレイヤーと防御側プレイヤーが同時にジャンプをした場合、攻撃側の違反とはならない。   | 攻撃側プレイヤーと防御側プレイヤーの2名が違反を伴わず接触している場合や、単に同時にジャンプしている場合において、攻撃側の違反を判定すべきではない。競技を継続させることが、最良の判定である。                               |
| 7 | 映像7：KOR vs GER<br>ピボットプレイヤーが防御側プレイヤーのユニフォームを掴み、明らかな得点チャンスを作っている。 | フリースローの実施の際にスローを行う選手が、横に広げた腕を使って、あるいは防御側プレイヤーのユニフォームを掴み自チームにとって優位な空間を作っていないか等、注意深く観察ことは、両レフリーの責任である。                          |
| 8 | 映像8：JPN vs NED<br>不当なブロック。                                       | ゴールエリアライン際にいるプレイヤーが、伸ばした右腕を使い不当にブロックをし、明らかな得点チャンスを作り出している。<br>レフェリーは、攻撃側の違反を判定すべきである。   |
| 9 | 映像9：FRA vs SLO<br>速攻時のシミュレーション行為。                                | 交代して入ってきた防御側プレイヤーが、攻撃側プレイヤーの方向へと動きながら、大げさな動作で攻撃側の違反を誘発するように倒れた。<br>レフェリーは競技を継続させることが正しい判定であり、その後、防御側プレイヤーに対して段階的罰則を適用する必要がある。 |

|    | 映像タイトル  | 解説  |
|----|---|---|
| 10 | 映像10 : SWE vs FRA<br>腕を使ってのフェイント動作。                             | 攻撃側プレイヤーは、前へと動いていない防御側プレイヤーの体に対し、腕を使い（スイングさせて）フェイントをしている。<br>レフェリーによる攻撃側の違反の判定は、正しい。  |
| 11 | 映像11 : MET vs ROS<br>攻撃側の違反にはならず、(シュートが入らなければ) 7m スローを判定すべきである。 | 2人の防御側プレイヤーは、カットインを試みる攻撃側プレイヤーを守ろうとしたが、(守り切る前に) すでに2人の間を割ってシュート体勢に入っていた。<br>映像では、得点を認めるべきである。<br>もしシュートが入らなければ、7m スローを判定すべきである。 |

### Topic 3 : パッシブプレー

|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 1 | 映像1 : DEN vs MNE<br>組み立て局面までの時間があまりにも長い (Walking Handball にはすぐに予告合図を)。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況 : 攻撃側チームは前半終了直前に、1人少ない状況で5点リードをしている。</li> <li>● 観察基準 : <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 相手側コートに入っても、攻めることなく歩いてパスを回しており (Walking Handball)、25秒の時間が経過している。</li> <li>➢ 立ったままのパスや、戦術的な目的のないウィングプレイヤーとのクロス等にレフェリーは気付かなければならない状況を察知しなければならない。</li> <li>➢ 攻撃側プレイヤーは、時間稼ぎのために反則された際に倒れこんだりしている。</li> </ul> </li> </ul> <p>IHF ガイドライン : 狙いを定めた攻撃活動に移行するまでの極端な遅延は、許さない。</p> <p>例) 相手コートまで歩きながらの移動、<br/>立ったままのパス、<br/>攻撃のペースが上がらない、<br/>狙いを定めた攻撃活動でない 等</p> |
| 2 | 映像2 : GER vs CMR<br>フリースロー後の組み立て時間が、あまりにも長い。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況 : 攻撃側チームは後半の開始早々、7点差で負けている。</li> <li>● フリースローの後、攻撃のペースを変えることなく、体系的な攻撃ができない。</li> <li>● レフェリーは、良いタイミングでパッシブプレーの予告合図を示している (キャッチミスの時)。</li> </ul>  |

|   | 映像タイトル   | 解説  |
|---|--|---|
| 3 | 映像3：SWE vs NED<br>フリースローの直後は、攻撃側チームに短い組み立て局面の機会を与える。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況：後半の中盤でスコアは同点。</li> <li>● フリースローの後、レフェリーはすぐにパッシブプレーの予告合図を示しているが、これはレフェリーのミス。</li> </ul> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フリースローの後、攻撃側チームに短い組み立て局面の機会を与えるべきである。</li> <li>◆ フリースロー後の組み立ては、ボールを所持してから最初の狙いを定めた攻撃活動より明らかに短い時間でなければならない。</li> </ul>   |
| 4 | 映像4：NED vs KOR<br>狙いを定めた攻撃をやめた場合、早めに予告合図を出す。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況：試合終了4分前に、攻撃側チームは2点リードしている。</li> <li>● 組み立て局面終了後に早いパス回しから攻撃を試みるものの、シュートを狙うような状況にはならない。</li> <li>● センターと左バックの2対2の攻撃もうまくいかず、予告合図を出すのに適した状況となり、実際、レフェリーは少しタイミングが遅れたものの予告合図を示した。</li> </ul> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ レフェリーは、チームが狙いを定めた攻撃活動を開始したり、ボールを持っているプレーヤーがゴールに向かっていているときには、予告合図を示してはいけない。</li> </ul> |

|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 5 | <p>映像 5 : ESP vs SRB</p> <p>攻撃を継続しているように見せかけている行為。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況：攻撃側チームは退場者がいたため、GK を交代させ 6 人で攻撃をしている。</li> <li>● バックコートプレイヤーとウィングプレイヤーはクロスから攻撃を開始し、更にバックコートプレイヤー間でクロスを継続している。</li> <li>● 観察基準： <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ クロスをしているが、防御側プレイヤーと接触していない。</li> <li>➢ ボール保持するプレイヤーは、ゴールから遠ざかりパスを繰り返している。</li> <li>➢ 攻撃に、シュート場面を作り出そうという明確な意図がない。</li> </ul> </li> </ul> <p>メモ</p> <p>チームに退場者がいる場面では、チームは意味のないクロスやトランジションを行うことをレフェリーは心得ておく必要がある。このようなプレーは、レフェリーを欺き時間稼ぎを目的としている。この状況を確認したらレフェリーは予告合図を出すべきである。</p> <p>判断基準：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 攻撃側チームが相手と接触することなく、フリースローライン際でプレーしている。</li> <li>➢ ボールを保持するプレイヤーは、ゴールからすぐに遠ざかる（特に 1 対 1 の局面で、ゴールを狙わず上半身はパス方向に向け、パスの方向しか見ていない）</li> <li>➢ バックコートプレイヤーがゴールを狙う様子もなく、ゴールライン近くのピボットにパスフェイクをする（あたかもライン際の有効なスペースを作り出すようにして防御側チームをゴールエリアライン際まで下げている）。</li> <li>➢ シュートチャンスを作るためのスペース（例えば 2 人の防御側プレイヤーの間）を攻めることなく、頻りにポジションチェンジを繰り返している。</li> </ul> |

|   | 映像タイトル                              | 解説   |
|---|-------------------------------------|--|
| 6 | 映像 6 : GER vs CMR<br>積極的な防御活動。      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況：前半終盤に、攻撃側チームが 4 点リードしている。</li> <li>● 右バックとセンターのクロスで攻撃のきっかけが行われるが、5-1 防御は機能しておりパスコースを消して相手の思うような攻撃をさせていない。</li> <li>● 攻撃側のスピードは完全に低下し、バックコートプレイヤーはボールを受け取るためにコート後方に戻ることを余儀なくされている。</li> <li>● レフェリーは、この良いタイミングで予告合図を示した。</li> </ul>   |
| 7 | 映像 7 : NOR vs ROU<br>ゲーム終盤のパッシブプレー。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況：試合終了 2 分前、同点の場面で、攻撃側のチームが退場時間を 13 秒残してマイボールとした。</li> <li>● 観察基準： <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 攻撃側となったチームは、相手側コートに歩いて移動し（約 25 秒続き）、退場者が戻ってくるのを待っている。</li> <li>➢ この後、長い組み立て局面が続き、3 対 3 の攻撃が続いた。</li> <li>➢ バックコートプレイヤーはゴールの方へと向かうもののすぐにパスをするので、シュートチャンスを作り出す意図が全く感じられない。</li> </ul> </li> <li>● 右バックがボールをキャッチしコートの後方に移動した良いタイミングで、レフェリーは予告合図を出した。</li> </ul> |

|   | 映像タイトル                             | 解説   |
|---|------------------------------------|--|
| 8 | 映像 8 : NOR vs ROU<br>延長戦における最後の攻撃。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 状況 : 1 点差でリードしているチームが延長終了 43 秒前に、退場時間が 21 秒残っている状況でボールを保持した。</li> <li>● 観察基準 :               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ プレーヤーは歩いて相手側コートに入りながら、退場時間の終了を待っている。</li> <li>➢ 防御側チームは、バックコートプレーヤーに対し積極的にマンツーマン防御を行い、パスコースを消している。</li> </ul> </li> <li>● レフェリーは、試合終了の 8 秒前、フリースローの直後に予告合図を出した。</li> </ul> <p>メモ :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 試合の終了 8 秒前に予告合図を出してもあまり意味はない。また、フリースロー後の予告合図は正しいタイミングではない。</li> </ul> <p>問題は、フリースローの前に予告合図を出すことができたかどうかである。</p> <p>パッシブプレーを評価するにはいくつかの観察基準が関連しており、レフェリー団によって一緒に議論しなければならない。</p> <p>この特別な状況では、”Walking Handball” の局面や、積極的な防御活動により延長後半 4 分 44 秒に左ウイングが前方に動いた後パスをした瞬間など、予告合図を出すタイミングがあった。</p> <p>ここでは、防御側チームが積極的にパスコースを消したことにより、攻撃側チームのペースが落ちパスをしたときが、予告合図を出すタイミングである。</p> |

## Topic 4 : 7mスロー

|   | 映像タイトル  | 解説  |
|---|---|---|
| 1 | 映像1 : DEN vs MNE<br>シューターが十分にボディコントロールできている状況下での、7m スローの判定① | 例え軽微な違反があったとしても、シューターが自身の体を十分にコントロールできていると判断したならば、7m スローの判定はすべきではない。<br>映像では、完全にシュートを打ちきり、GK がセーブした後シューターにボールが触れているので、ゴールキーパーズローの判定が正しい。  |
| 2 | 映像2 : BUC vs THC<br>シューターが十分にボディコントロールできている状況下での、7m スローの判定② | 1人の防御側プレイヤーはゴールエリア内で、更にもう1人は軽微な違反をしていたとしても、そのアドバンテージを見た結果、完全にボディコントロールができている状況でシュートを打っているならば、7m スローの判定はしない。<br>映像では、手前から3人目のプレイヤーがゴールエリア内でプレーしているのに加え、その隣のプレイヤーが軽くプッシングしているように見えるが、最後のシュート局面において、シューターへの影響はない。<br>正しい判定は、ゴールキーパーズローである。 |
| 3 | 映像3 : SWE vs FRA<br>シュートをしている腕に対する軽微な違反とその影響。               | 例え軽微な違反であったとしても、シュートチャンスを阻止しているならば、7m スローを判定しなければならない。<br>レフェリーは、影響をしっかりと見極める必要がある。<br>映像では、攻撃側プレイヤーのアウトカットインに対して、防御側プレイヤーは軽微な違反をした。攻撃側プレイヤーはシュートまでいけているが、明らかなシュートチャンスを奪われてしまっているため、7m スローの判定は正しい。<br>ただし、段階的罰則は不要である。                  |



|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 4 | 映像4 : CZE vs HUN<br>ゴールエリア内に倒れている防御側プレイヤーによるシューターへの影響。 | サイドシュートの場面で、DF が意図的に妨害しようとしていなくても、シューターの前に入り明らかに影響を及ぼした場合、7m スローを判定すべきである。   |
| 5 | 映像5 : PAR vs CHI<br>ゴールエリアへの侵入に対する判断基準について①            | ゴールエリアライン際の攻防で、片足がゴールエリアライン上、もう一方の足がゴールエリアの外にある場合は、「ゴールエリア内に完全に侵入している」状況とは認められない。IHF は、明らかに一方の足がゴールエリア内に踏み込んでいる場合に「ゴールエリア内に侵入」とみなす。<br>映像では、完全にゴールエリア内に侵入はしておらず、フリースローが正しい判定である。 |
| 6 | 映像6 : KOR vs GER<br>ゴールエリアへの侵入に対する判断基準について②            | ゴールエリア内防御の定義は、「少なくともいずれか一方の足が“完全に”ゴールエリア内に踏み込んでいること」である。ゴールエリアへの侵入があった場合、7m スローを判定する。<br>映像では、1対1のフォローに入った防御側プレイヤーは完全にゴールエリア内に侵入しており、7m スローの判定となる。この場合、正面での接触のため罰則は不要である。        |
| 7 | 映像7 : ROS vs GYO<br>防御側プレイヤーによる、ゴールエリア外からゴールエリア内への移動。  | ゴールエリアラインから 50 cm離れた位置で最初の接触があり、その後、攻撃側プレイヤーに押し込まれる形でゴールエリアの中に入っている。この場合は、単にフリースローを判定する。   |

|    | 映像タイトル  | 解説  |
|----|---|---|
| 8  | 映像 8 : POR vs ESP<br>シュートをしている腕に対する違反。                      | シュートをしている腕に対し違反を犯した場合、7m スローの判定に加え即座に 2 分間退場を判定する。<br>ゴールレフェリーはまずスローの再開方法 (7m スロー) を示し、続けて罰則 (タイムアウト+2 分間退場) を適用する。   |
| 9  | 映像 9 : NED vs RUS<br>「無人のゴール」の考え方。                          | GK が不在で無人となっているゴールへシュートを狙った際に、防御側プレイヤーが違反を犯したならば、7m スローを判定する。<br>しかし、映像では攻撃側プレイヤーはシュートを狙ったと判断できないため、フリースローの判定が正しい。<br>その一方で、防御側プレイヤーは攻撃側プレイヤーの頭部を叩いており、即座に 2 分間退場の判定は正しい。 |
| 10 | 映像 10 : SWE vs FRA<br>競技の継続 (アドバンテージ) の判断について。              | 軽微な違反があったがアドバンテージを認めたならば、攻撃側プレイヤーがシュートを狙いに行くことを、フリースローや 7m スローの判定で中断させてはならない。<br>そのまま競技を継続させる判断は、正しい。   |
| 11 | 映像 11 : CMR vs KOR<br>攻撃側プレイヤーのボディコントロールと防御側プレイヤーの位置取りについて。 | 防御側プレイヤーが先に位置を取り、相手に向かって動いていない状態で、ゴールエリアの外で接触があったならば、7m スローを判定してはいけない。むしろ、攻撃側の違反を判定するべきである。   |

## Topic 5 : 一般的なもの

|   | 映像タイトル  | 解説  |
|---|---|---|
| 1 | 映像 1 : SRB vs KOR<br>スローオフの誤った実施。                                   | スローオフを行うプレイヤーの位置が間違っている。<br>レフェリーは競技の開始直後から競技終了の瞬間まで、しっかりと観察し適切な判断をすることが求められる。  |
| 2 | 映像 2 : SRB vs NED<br>競技終了間際、重要な場面での素早いスローオフ。<br>(スロアーはポイントを走り抜けている) | 競技終了間際に、誤った方法でスローオフが実施され、ボールはゴールに入った。<br>この場面でレフェリーは、スローオフとゴールを決して認めてはならない。   |
| 3 | 映像 3 : NED vs KOR<br>なぜ直接の 2 分間退場なのかを示す、理想的なボディランゲージ。               | レフェリーによる効果的なボディランゲージとインフォメーションが、「なぜ即座の 2 分間退場を判定したのか」を会場の皆が理解できるようにしている。  |
| 4 | 映像 4 : ANG vs FRA<br>速攻時の明らかな着地でのシュート。                              | 速攻の際、シューターが高くジャンプしていたとしても、ボールを手から離す前に着地をしていることがある。このような場面でゴールレフェリーは、即座にゴールスローを判定しなければならない。映像では、幸いなことにシュートを外している。          |
| 5 | 映像 5 : SLO vs ANG<br>明らかなオーバーステップ (4 歩) であり、得点を認めることはできない。          | ウィングプレイヤーがボールを受け取り、向きを変え、ドリブルせずに (沢山の歩数を使って) シュートを決めた。<br>ゴールレフェリーは、フリースローを判定すべきである。<br>レフェリーは正しい判定を下すために、集中力を高めなければならない。 |

|   | 映像タイトル   | 解説   |
|---|--|--|
| 6 | 映像 6 : ROU vs ESP<br>レフェリーにミスがあったとしても、大きなアピールでの抗議は、直接の 2 分間退場とすべきである。  | このような抗議を行うことは、明らかにスポーツマンシップに反する行為であり、即座に 2 分間退場とすべきである。  |
| 7 | 映像 7 : TUN vs BRA<br>＜競技終了前 30 秒間＞<br>競技規則 8 の 10c の適用。                | レフェリーの笛の合図の後、防御側プレイヤーは素早いフリースローの実施を妨げた。映像のような場合、例え攻撃側プレイヤーも多少押していたとしても、競技規則 8 の 10c を適用する（フリースローラインの中にいる 2 名の攻撃側プレイヤーの存在は問わない）。<br>レフェリーはレッドカードを示し、7m スローを判定しなければならない。 |
| 8 | 映像 8 : FTC vs GYO<br>攻撃側プレイヤーのリアクションに注目すると…<br>レフェリーを欺く行為（オーバーリアクション）。 | 攻撃側プレイヤーのオーバーリアクションを伴う欺く行為が、防御側プレイヤーの 2 分間退場を誘発した。<br>レフェリーは事象を正しく観察できる位置を取る必要があり、IHF は、このようなアンフェアな振る舞いに対し、「やってはいけない」というメッセージを込めて（強めのインフォメーションによる）罰則を適用することを求める。       |
| 9 | 映像 9 : GER vs ROU<br>ゴールキーパー不在の状況で、明らかに 7m スローを判定すべきシーン。               | ゴールキーパーが不在の状況で、攻撃側プレイヤーは明らかにゴールを狙おうとしている。しかしファールにより、シュートは妨げられた。<br>レフェリーはプレイヤーの位置に関わらず、7m スローを判定しなければならない。   |

|    | 映像タイトル                           | 解説   |
|----|----------------------------------|--|
| 10 | 映像10 : ROS vs BUD<br>レフェリーを欺く行為。 | 攻撃側プレイヤーのオーバーリアクションを伴う欺く行為が、防御側プレイヤーの直接の2分間退場を誘発した。<br>レフェリーは事象が正しく観察できる位置を取る必要があり、IHFとして、このようなアンフェアな振る舞いに対し、「やってはいけない」というメッセージを込めて（強めのインフォメーションによる）罰則を適用することを求める。 |



24th IHF  
WOMEN'S HANDBALL  
WORLD CHAMPIONSHIP  
KUMAMOTO / JAPAN 2019